

令和 7 年度 第 5 回運営推進会議議事録		記載日	令和 7 年 12 月 9 日																				
看護小規模多機能ホームやすらぎ		記載者	川添 真希																				
議題	1. 交流・行事・地域活動の実施状況 2. 利用者状況・サービス実施状況 3. 事故・苦情・感染・相談受付報告 4. 地域の現状等情報交換・助言など 5. お知らせ																						
日時	令和 7 年 12 月 9 日（火）開催																						
出席者 敬称略	上中 3 区 町内会会長 グループホームなごみの郷可部 三入・可部地域包括支援センター 看護小規模多機能ホームやすらぎ		川本 祥平 廣森 靖司（欠席） 片山 崇紀 川添 真希 古川 純子 大道 麻衣子																				
欠席者 敬称略	広島市民生委員 ご利用者家族代表 広島大学（2 年生）看護実習生		藤原 照夫 植田 美鈴（欠席） 2 名																				
議事	1. 交流・行事・地域活動の実施状況 ・ 誕生日を迎えられたご利用者 10 月：4 名 11 月：2 名 ・ 秋のドライブツアー 可部運動公園へ紅葉狩り 福祉車両を使用し送迎 2 日間に分け実施（ご家族数名参加） ・ 地域活動報告 秋祭り上中 3 区神輿渡御 にのみやグループ職員 4 名参加（前日準備、神輿担ぎ） 2. 利用者状況・サービス実施状況 <table><tr><td></td><td>要介護 1</td><td>要介護 2</td><td>要介護 3</td><td>要介護 4</td><td>要介護 5</td></tr><tr><td>10 月</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>11</td><td>10</td></tr><tr><td>11 月</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>10</td><td>7</td></tr></table> <p>□ 平均要介護度：4.1（男性：3.9 女性：4.2） 新規利用者・終了者</p>						要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	10 月	2	4	4	11	10	11 月	2	4	4	10	7
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5																		
10 月	2	4	4	11	10																		
11 月	2	4	4	10	7																		

	新規 利用者	終了者
10月	7	6
11月	5	2

＜新規利用者＞

＜終了者＞

- ・ ターミナルケア
- ・ 医療的ケア
- ・ 退院直後
- ・ ご逝去 7名
- ・ サービス移行 1名

2F（ラシュールメゾンやすらぎ）

平均入居者数：10月名、11月名

3F（看護小規模多機能サービス）

自宅平均利用者数：14名

うち、3名特養入居待ちのため連泊中（運営推進委員の承認を得た）

3. サービス実施状況（1日平均人数・回数）

	平均 登録者数	通い平均 定員18名/日	泊り平均 定員9名/日	訪問介護	訪問看護
10月	25.4	13.7	5.2	19	24
11月	26.3	15.0	6.0	15	20

❑ 利用者性別割合：男性 40.9% 女性：59.1%

❑ 平均年齢 84.7 歳

4. 事故・苦情・感染症・相談受付報告

インシデント・アクシデント・感染

	インシデント	アクシデント	苦情	感染症
10月	3	6	0	0
11月	8	12	1	1

※転倒 6件、与薬 1件、破損 1件、外傷 6件、その他 1件

レベルⅠ 6件、レベルⅡ 7件、レベルⅢ 5件

※感染症 インフルエンザ A型（職員）1名

❑ 事故状況・対策

レベルⅢ（10月 1件、11月 4件）

<事故状況・対策>

内容

- ・ 機械浴のミスト後の体を拭く時に左第二趾より出血を発見し、利用者の爪が剥がれている状態であった

対応策：肥厚した爪や変形した爪は、早めに対応し爪切りややすりなどでケアをする。困難な場合は皮膚科へ受診を勧める

- ・ 入浴中に左前腕に 0.5 cmの剥離を発見する。いつどのようになったか原因不明

対応策：両前腕のアームカバーを毛糸のものから女性用日焼け防止のカバーへ変更して検証する

- ・ 介護士より右手背に傷があると報告あり。車椅子からベッド移乗し臥床介助後に気づいた

三日月状、1.5 cm程度の裂傷。洗浄しワセリン塗布、不織布保護、包帯固定をした

- ・ 2人介助でベッド臥床介助を行った。体勢を整える際、右前腕に皮膚剥離発見。出血はなく、ほぼ止血された状態だった

皮膚保護テープ、不織布を使用し右手背の剥離部分を処置・包帯保護した（同利用者 2件）

対応策：皮膚の乾燥や脆弱化あり軟膏やクリームを使用し保湿ケア、衣類の着脱時摩擦に注意する

□苦情報告

内容

自室よりポータブルトイレを叩く音が聞こえ訪室した。

ナースコールが手の届かない位置に置いてあり、本人様より筆談で名指しで苦情あり。

「○○さんは最悪だ、あんな介護はあり得ない、二宮先生にも言いたい。私は見とるけえね。ランク付けてる。と真っ赤な顔して話される。」

臥床時は人工呼吸器（NPPV）装着されている方。進行性難病により移乗介助を要し失語症がある。

ケア方法として毎回手の届く所にナースコールを置き、排泄中はその場から離れる様になっている。

対応策

本人へ詳細を管理者より確認。排泄介助前に他の利用者からのコール対応があり、苦情対象者のナースコールを

置いたつもりになっていた。（発生フロア・時間帯：2F 遅出職員 1 名、夜勤看護師 1 名 18：00 頃）

⇒理事長へ報告事案として発見者、管理者より報告し謝罪

カンファレンスを開催し再発防止のため、振り返りと対応方法について周知徹底を行った

再発防止として、コール対応が重複する時間帯や理由があるが、介助を行

った職員は最後まで確認作業は怠らないことと
インカム（フロア内無線機）を使用しケアの途中経過及び終了確認を職員
間で情報共有する。

□相談受付報告

新規受付

10月 8件 11月 6件

<内容>

- ・ ターミナルケア
- ・ 退院後在宅復帰サポート
- ・ 医療的ケアを受けながら療養生活移行
- ・

5. 地域の現状等情報交換・助言

インシデントアクシデント報告について

- ・ 皮膚の損傷報告が多いがどのような状況での事故なのか

⇒高齢者の方は皮膚が乾燥、浮腫など脆弱化しているため、保湿ケアやケアスタッフが様々な工夫によりアームウォーマー、レッグウォーマー等手作りまたは市販の保護具を活用し創傷予防に努めている。

移乗時や体位交換時に摩擦が生じないように、事故の度に介助方法を検討し対策を講じているが、ゼロ事故にならないのが正直な回答となる。しかしながら、利用者の安全・安楽は今後もケアの質として対策し続ける。

- ・ 地域包括では相談窓口の管轄が安佐北区は広範囲である。可部地区は事業所が多いが、白木地区など事業所が少ない場合地区外からのサービス支援依頼がなかなか決まらない現状。

⇒当グループ内で情報共有しサービス提供ができるようにします。相談口にお困りの際は、ご一報ください。

- ・ 町内会の秋の神輿は今年も無事に行う事ができました。今後もよろしくお願いします。

⇒地域活動に参加できる機会のため今後もお声がけをお願いします。

【長期連泊の承認について】

- ・ 施設入所が決定するまでは、連泊を承認する。

6. お知らせ

- ・ まちとも健幸教室開催

12/16（火）13：30～14：30 のぞみ薬局高陽店 2F

今日からできる脳卒中・認知症予防と上手な「脳外科」の頼り方

講師：さこぐち脳神経外科クリニック 迫口 哲彦医師

- ・ まちともひろば winter パーティー

12/21（日）11：00～13：30 にのみやデイサービス・アクア

	<p>【連絡事項】</p> <p>次回の運営推進会議</p> <p>令和8年2月10日（火）10：00-10：30</p> <p>看護小規模多機能ホームやすらぎ 相談室</p> <p>以上</p>
--	--